審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名	生涯学習課文化センター

会 議 名	令和 6 年度 第 3 回諏訪市文化センター運営検討委員会
開催日時	令和 6 年 10 月 22 日(火) 17 時 30 分 ～ 19 時 15 分
開催場所	諏訪市文化センター2 階 第 3 集会室
出 席 者	【出席者】髙見 俊樹委員長、石城 正志副委員長、二村 悟委員(ﾘﾓｰﾄ)、中島 昌之委員、宮嶋 孝枝委員、牛越 雅紀委員、木村 修子委員、三澤 凜委員、高津 璃子委員、金子 雄二委員、石田 名保子委員、山田 佳子委員、宮坂 寿子委員 三輪教育長、細野教育次長、五味課長、小林課長、関沢係長、守屋館長、福田主査、今井みどり教育委員(オブザーバー) 【欠席者】 河西 風花委員、小山 美奈委員 【傍聴者】 一般 1 名、新聞記者 2 社
資 料	資料①:第 3 回諏訪市文化センター運営検討委員会 次第 資料②:第 3 回諏訪市文化センター運営検討委員会 説明資料 別紙①:グループ表 参考資料①:第 2 回諏訪市文化センター運営検討委員会 会議録

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1、開会

2、教育長あいさつ

3、会議事項

(1)前回のふりかえりについて

＜事務局より資料に基づき報告＞

＜質疑・意見＞特になし

(2)ワークショップについて テーマ:「施設の将来像と事業展開を深掘りしよう！」

＜事務局より資料に基づき説明＞

〇全体像

・今回も前回と同様に、理想、アイデアなど理想検討をしていただく。

〇タイプ分け

・一般的に、夢想家(ドリーマー)、現実主義者(リアリスト)、批評家(クリティック)の 3 タイプに分けられるが、今回も同様に夢想家(ドリーマー)として自由なアイデアを出していただきたい。

〇今回のテーマ

・テーマは「施設の将来像と事業展開を深掘りしよう！」で、2 つの視点でアイデアを出していただきたい。

・1 つ目は、「施設の将来像」で、「生まれ変わる文化センターはどんな使い方ができたらよいか」という視点である。使い方のキーワードを出していただきたい。

・2 つ目は、「事業展開」で、「生まれ変わる文化センターで実施するイベントは、『どこで』『だれに』やるのが効果的か」という視点である。イベントを実施する場所(エリア)と誰に対してやるのか、対象(ターゲット)を考えていただ

きたい。

〇今回のルールとキーワード

・ルールは 3 点。①前向きな議論をする。②全員が参加する。③発想を転換する。

・キーワードは、前回の二村先生からの総括から 4 点。①文化センターの歴史的建造物の良さや魅力を引き出すような利活用を考えること。②前回のワークショップを参考にしながら、今回のテーマに沿ってグルーピングの内容や視点を変えて考えること。③5W1H を意識しながら考えること。④文化センターと周辺施設を関連付けて面的な視点で考えること。

〇今回の方法

・3 グループに分かれて実施する。各グループで役割を決める。時間は 60 分間。

・各グループごとに発表していただく。

〇各グループの発表

内容は別紙のとおり

〇二村委員からのコメント

・それぞれの班が、それぞれ異なるアプローチの仕方をしていて、興味深かった。

・A 班の場合は、子供から親子や高齢者まで含めて、文化財そのものを生かすという中で議論をしていたので、社会的包摂施設のようなイメージを中心に考えていたと感じた。

・B班については、領域や拠点という話をしていた。ここから中心に波紋のように広がって戻ってくるような拠点化計画のような、伝播していく施設としての利活用という話があり、とても面白いと思った。

・C班は、面的な話から点に落ちてくるというアプローチをしていたので、市の中核施設の計画のような視点で話をしていたと感じた。

・この 60 分というかなり短時間の中で、ポイントをしっかり探りながら議論していたと感じた。

・ハードそのものを使い倒してくれるような案がほとんどで、私としてはとても楽しい内容だった。

・共通して防災についての話題があって、特に A 班の場合は文化財防災にも近いと思うが、防災問題はまちづくりには必須になっている。夢を描くとはいえ、現実として防災は切り離せない時代になっていると私自身も改めて再認識した。

・市民と文化センターのより良い繋ぎ方を考えることがデザイン思考になると思うが、本日のワークショップでは事業展開というテーマで提示されていた。

・誰が使用するかがとても重要なポイントになってくると思うが、本日のワークショップでは具体化していてとてもわかりやすかった。特に事業展開に対してターゲットを考えるということは、その人にとってより良く何かを実現するということになるので、とても大切なポイントだと思う。

・例えば、多目的ホールは目的がないホールということで誰がどのように使っても使えることが売りであるが、結局誰かが何かをするための、より良い使い方ができるという目的では作られていないので、誰がどう使うかは大切な視点となる。

・今後もっと具体的な絞り込みをしていくと、さらに具体化して掘り下げていくことができると感じた。

・例えば、図書館で未就学児～小学校低学年ぐらいまでは大体マットの上で読み聞かせを親子でしているが、小学校中学年くらいになるとイスに座って机を使う場合もある。幼稚園の作り方も年少～年長で、特にトイレやロッカーなどそれぞれ備える施設設備が変わってくる。また、主婦というと広い範囲になるが、例えば園児を抱える主婦で、さらに、園児の送り迎えのときの主婦など、どんどん関心を絞り込んでいくと、そういう人のためにとってより良い場としてどんな備えがあれば良いのか、変わってくると思う。

・この先の段階になるとは思うが、効果を考えてみると良いと思う。

・例えば、学生の勉強の場と読み聞かせから想像すると、高校生が小学生に読み聞かせを行うことで、異年齢の関

わりが生じて、子供のコミュニケーション能力の向上に効果がありそうなど、次の段階で効果まで意識するともっと楽しく議論ができると思う。
・抽象表現を具体的な言葉に変えてみることも良い。例えば、コミュニケーションという言葉を、誰と誰がどんな交流をするかに置き換えてみると、ただのイベントではなく、何か関わりの起きる催しになるかと思うので、そこを意識すると楽しくなってくるとも思った。

＜質疑・意見＞特になし

4、その他
（事務局）
・次回の運営検討委員会は、12月上旬を予定している。
・日程と内容については、事務局で調整をさせていただいた上で、別途通知させていただく。
・会議資料についても、事前に送付させていただくので、ご覧いただいた上で次回の委員会に出席いただければと思う。

5、閉会